

熊本高専  
熊本キャンパス  
図書館だより  
第33号  
2022年2月発行

〈目 次〉	
● 特集コーナーの紹介	p.2,3
● ランキングTOP5	p.4
● 図書館長エッセイ:「水」について-旅と本の案内	p.5~9
● 校内読書感想文コンクール結果発表	p.10
● 校内読書感想文コンクール最優秀賞(第67回青少年読書感想文コンクール熊本県審査「佳作」)作品	p.11
● 第41回高校生読書体験記コンクール「入選」作品	p.12
● 校内読書感想文コンクール入賞作品対象本紹介	p.13
● 編集後記	p.13
● 図書館統計データ	p.14



# くぬぎの森



写真同好会撮影作品



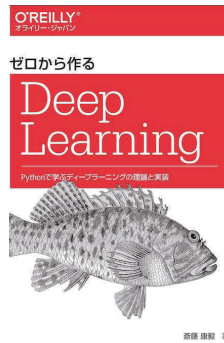
# 特集コーナーの紹介

(機械学習・深層学習とR・Pythonコーナーより)

近年、AIのブームで機械学習や深層学習などがよく用いられています。図書館では、機械学習・深層学習やそれらに用いるR・Pythonを特集したコーナーを設けました。是非、低学年の皆さんも手に取ってみてください。

## 『ゼロから作るDeep Learning』

- Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装
- 自然言語処理編
- フレームワーク編



## 『ベイズ深層学習』



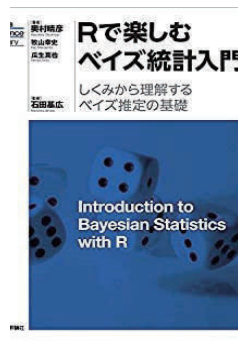
## 『ゼロからつくるPython機械学習プログラミング入門』

(右ページ本木先生推薦本)



## 『Rで楽しむベイズ統計入門』

しくみから理解するベイズ推定の基礎』



## 『Pythonで学ぶフーリエ解析と信号処理』



## 『機械学習を解釈する技術』

(右ページ本木先生推薦本)

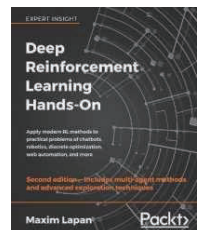


(下の写真は閲覧室の特集コーナー)



## 『Deep Reinforcement Learning Hands-On - Second Edition』

(右ページ本木先生推薦本)



## 機械学習・深層学習とR・Python

## 特集コーナーの紹介

## TE科教授 本木 実

お話をいただきましたので本特集コーナーの紹介を書かせていただきます。

私は19歳ごろより30年くらい、いわゆるAI(人工知能)でニューラルネット(脳のモデル)の研究や開発を続けてきました。図書館にこれだけの本が一挙に集められていて大変参考になるとともに、AIブーム、そして現在の産業やこれからの技術として全世界的に注目が集まっているのを感じます。

AIというとやや近未来的でSFを想像しがちですが、学問としては「機械学習(Machine Learning)」という分野で総括されます。機械が学習を行えばそれが人工知能になる、ということで、ニューラルネット、Support Vector Machine, Decision Tree, Boosting, などなど多数のモデルがあります。「深層学習(Deep Learning)」とはその中でも、ニューラルネット、つまりニューロンと呼ばれる神経がネットワークとしてつながっていて、それが多層に深く層をなしてつながり、学習を行っているモデルや、その学習方法を言います。人間の脳もそうですが、多数の情報を小さい子供の頃から処理してきて、「統計的に」処理の仕方を覚えていきます。「あ」や「い」といった手書きの文字のなども、いろんな人のくずれた文字を沢山、沢山見てきて、多少くずれた文字でも「あ」と認識できます。これらは、数学的には統計的に処理される、ということで統計学、そして多数のデータを処理するという意味で、ビッグデータ、モノがインターネットにつながり(つまりIoT; Internet of Things)から収集される膨大なデータを、処理、学習、予測できる技術につながっていきます。そして、これらを手軽に扱えるフリーソフト「R」や、プログラミング言語「Python」を使って、体験しながらこれらの技術を理解しよう、という最近の流れを、この特集コーナーでは一気に取り扱ってくれています。3冊ほどピックアップしてご紹介します。

「ゼロからつくるPython機械学習プログラミング入門」八谷ら、講談社、2020.8は、機械学習がバランスよくまとまっている本でした。最低限の数学的な解説も最初の方の章にまとめられ、適度に色を使った図を織り交ぜて書かれており理解しやすくなっています。もちろんPythonのコードも載っていますので、1,2年生でもトライでき、3年生くらいならばおおよそ理解、イメージが及ぶ内容だと思います。「ゼロから作る…」というタイトルは、ベストセラーにもなった「ゼロから作る

DeepLearning」(「ゼロD」とも呼ばれるらしい)の影響を受けているタイトルですが、DeepLearningだけにとどまらずより広く機械学習を扱ってくれています。

「機械学習を解釈する技術」森下、技術評論社、2021.8は、従来の確率・統計論からの線形モデルなどではデータに対する「予測力」それほど高くはないが、「説明」ができていました。一方で、近年の機械学習ではモデルの精度が高まり、データに対する「予測力」を上げられましたが、モデルが複雑なため「説明性」が低い状況にあります。これをPFI, PD, ICE, SHAPと呼ばれる4つの手法で説明できるもの(それぞれ、特徴量の重要度/特徴量と予測値の関係性/インスタンスごとの異質性/予測の理由)にしていこうという本です。大数学者ガウス提案した正規分布(ドイツ紙幣の図柄にもなっている)からくる、確率・統計論、そして多変量解析や統計的検定は、データの説明に使われてきました。今ではそれをはるかに超える予測力が機械学習によって実現できてきています。モデルが複雑すぎてブラックボックス化されているものをなんとか説明していこうという技術も生み出されてきているようです。

「Deep Reinforcement Learning Hands-On - Second Edition」Maxim Lapan, 2020.1. 機械学習は、「教師なし学習」「教師あり学習」「強化学習(Reinforcement Learning)」の3つに分けることができると言われています。「教師あり学習」は単に、入力データそれに対する(「あ」などの)教師ラベルの対により学習し、データを統計的に処理できる能力を得る学習モデルですが、「強化学習」はロボットが環境を探索し、環境からアメやムチのような正負の「報酬」を得て、自律的に処理能力を獲得していく学習モデルです。2017年には、なんとこのモデルで学習した人工知能は、人間の囲碁の世界チャンピオンを破ってしまいました。この本は最新の強化学習モデルをPythonのコードや動くミニロボットの実装などとともに紹介してくれています。

以上、紹介した3冊以外にも、今回の特集コーナーには、より学問的にしっかりした内容の本も多数選ばれて、配架されています。

今後、たくさんの「AI」を目にするようになると思います。「AI」という文言に騙されない、無意味に怖がらない、「このAIは、AIのどの技術を利用しているのか?」を理解できるようになるためにも、まずは自分の興味に素直に従って、手に取ってパラパラとめくってみてはいかがでしょうか。未来を拓く何かのきっかけになるような、良い「出会い」となるといいですね。



# ランキング

2021年熊本キャンパス内で借りられた本のランキングTOP5をご紹介します。  
 本図書館では主に、TOEICなどの英語学習本やPython関連、機械学習に関する本が人気があります。  
 TOEICは4,5年生の授業免除や大学編入の際に必要となります。是非図書館で参考書等を借用し、学習してください。

**TOP1** 『新TOEIC TEST出る単特急金のフレーズ』 TEX加藤 著・・・48回

**TOP2** 『1駅1題新TOEIC TEST文法特急』 花田徹也 著・・・45回

**TOP3(同率)** 『新TOEIC TEST出るパート5特急400問ドリル』 神崎正哉, Daniel Warriner 著・・・32回

**TOP3(同率)** 『新TOEICテスト文法問題でる1000問』 TEX加藤 著・・・32回

**TOP5** 『TOEIC L&R TEST出る単特急金のセンテンス』 TEX加藤 著・・・27回



一般書 編		
順位	書籍名	回数
1	英語耳：発音ができるとリスニングができる / 松澤喜好 著	27
2	スバラシク実力がつくと評判の線形代数キャンパス・ゼミ：大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる! / 馬場敬之, 高杉豊 著	17
2	スバラシク実力がつくと評判の微分積分キャンパス・ゼミ：大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる! / 馬場敬之, 高杉豊 著	17
2	Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装 / 斎藤康毅 著	17
5	PythonによるWebスクレイピング / ライアン・ミッチェル 著; 黒川利明 訳	15

文学の順位 文学(900)に括った場合の順位		
順位	書籍名	回数
1	推し、燃ゆ / 宇佐見りん 著	10
2	52ヘルツのクジラたち / 町田そのこ 著	9
3	ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人 = Black Showman and the Murder in an Obscure Town / 東野圭吾 著	8
4	ワイングラスは殺意に満ちて / 黒崎緑 著	7
5	京大芸人 / 菅広文 著	6



## 「水」について —旅と本の案内

図書館長 村上 純

去年の「くぬぎの森」にも書いたが、石橋に関心があって、菊池川沿いを中心に休みの日に見に行っている。昨年6月に出た『熊本橋紀行』(崎元達郎、福島通安著)には地図も載っていてとても便利なので利用させてもらっている。関心というものは関連するものへどんどん広がっていくもので、石橋のほかに金属橋も、それから川の上流にある滝、水源や湧水、さらにその近くにある神社へと見物の対象は広がってきて、私は週末ごとに小さな旅を繰り返している。

見に行く先が、NHK BSプレミアムの旅番組「につぼん縦断 ころろ旅」で火野正平さんが訪ねたところと重なって嬉しいときもある。その菊池市旭志伊萩にある「いがわさん」こと杉井川水源や益城町の左之目神社はとて面白い雰囲気の中で、火野さんがいつも「連れて来てくれた」と投稿者に感謝するのがよく分かる。番組は昨年熊本県にやって来て、「水の国」という表現が使われていたのが印象的だった。「ころろ旅」の話はさておき、湧水や水源は川の近くにあったり、川の源だったりする。神社はどうかというと、それはまた、これから順を追って繋がりを考えてみたい。



熊本市北区植木町・池の川水源

ブルーバックス『見えない巨大水脈 地下水の科学』(日本地下水学会、井田徹治著)の第1章に「地下水依存度の自治体ランキング」(2005年)とい

う表があって、水道水に地下水が占める割合の高い県の1位は鳥取県で99.3%だという。知らなかったのが意外だった。熊本は2位で86.9%。「豊かな地下水が存在することで有名な」県だとある。第2章には、地下水を水源とした水道のうちでも「熊本市の水道水は、非常においしい水だと評価された」(厚生省が1984年に発足させた「おいしい水研究会」調べ)とあるし、環境庁が1985年に発表した「名水百選」に4カ所も選ばれたのは富山県と熊本県のみで、「いずれも地下水が非常に豊富な場所である」とある。さらに、環境省の「新・名水百選」(2008年)にも熊本県は4カ所選ばれたという(1つも選ばれていない府県もある)。

第5章には、2009年に東京大学のグループがシリア北東部で約9千年前の「世界最古の井戸」の遺構を発見したことが書いてある。水を得るだけなら近くにあるユーフラテス川の支流から汲めばいいので、この井戸は「よりきれいな水を求めて掘られたものと考えられる」という。井戸の底には儀礼用らしい直径10~20cmの円形の石器が何個も置かれていたようだ。「井」とは元来は「自然に水が湧く場所、水が得られる場所」のことで、古代の日本でも集落は泉の周囲に発達したと考えられ、「多くの湧水が神社の中にあり、『水神様』などを祀る風習があるのも、このためだ」とある。

白洲正子氏の本に惹かれて何冊もその著書を読んだのは二昔も前のことであるが、講談社学芸文庫の『十一面観音巡礼』のことはよく覚えていて、今でも十一面観音といえば水の近くに祀られているものと思っている。ただし、この観音はもともとはバラモン教の山の神だったそうで、著者はこの「巡礼」を始める前には十一面観音は山に近い所や山岳信仰の寺に祀ってあると思っていたという。白洲氏関連の本には別冊太陽『白洲正子の旅』など、旅や骨董を取り上げたムック本も何冊も出ていて薦められる。

『白の民俗学へ』(前田速夫著)という興味深い本には、十一面観音の起源はバラモン教の十一荒神という神々であり、天候や雨水を支配するとある。また、十一面観音信仰は白山信仰がもとになっており、白山の主神であるイザナミは本地垂迹説により十一面観音と同体なのだという。「主神

が水の女神であるのは、白山が平野を潤す大河の水源で、農耕とは切っても切り離せない」からだと書いてあるが、「冥界の女神を祭神とするのは、熊野にその例があるとはいえ珍しい」ともある。白山を開いたとされる泰澄の前に姿を現した女神は、最初は池の中から九頭龍の姿で現れたのだそうだ。「絶えず自らの皮を脱ぎ、いずこともなく消滅しては、次々に再生する」蛇は古くから信仰の対象とされ、その「生命力と神秘とが豊穡への祈りに結びついて」、「ことに作物に実りをもたらす農耕神や雷神は、沼沢に棲む蛇に表徴されることが多かった」という。龍はその蛇の「変形」で、中国やインドでは地上と天上を結び、雲を起し雨を降らせる神聖な存在だった。

『山の民 水辺の神々—六朝小説にもとづく民族誌』(大林太良著)には六朝時代(222年—589年)の江南(揚子江の南の地域)の民俗が書いてあり、水田に出没する蛇や蛟竜は雷の統制下にあると考えられたという。雷(神)は雨を降らせてくれる存在であり、「水なしには成り立たない水稲耕作民の超自然界において、雷が重要な地位を占めるのは不思議ではない」とある。蛟竜(龍)とは龍の一種の水中に棲む水の主で、雲や雨に乗って天に昇り龍になると言われるそうだ。

蛇の信仰は日本や東洋だけのものではなく西洋でも古くからあったようで、『蛇と十字架』(安田喜憲著)という大変ためになる本には、「蛇は古代の日本においても古代の地中海世界の人々にとっても、死の世界、あの世と深いかわりを持つ存在であった」とある。この本にも、「龍は想像上の動物であるが、その原点には蛇信仰が存在することはまちがいないだろう」とある。日本の神話ではイザナミと蛇との関係も深いものがあるが、前田氏は白山の神である白山比咩が「初めはイザナミとされたのは、豊饒の女神であると同時に死の女神でもあるという、その両義的な性格に着目した結果に違いない」と書いている。

水は山の森林により涵養され、泉は山の麓に湧くから、いずれにしても山と水との関わりは深く、古代から人々は山も水も神として崇めたのだと思われる。これで、水と神の社である神社が繋がったようなので、私の小さな旅の話に戻ることにする。パワースポットを訪ねるのが人気だそうで、私

も行ってみた。いや、パワースポットだから行ったのではない。菊池市の立門橋と龍門橋を見に行ったので、近くにある神龍八大龍王神社(菊池市龍門)へも足を延ばしてみたのである。辺鄙な場所なのに県外ナンバーの車が何台も駐まっていた驚いたが、実際かなり「パワー」がありそうなところであった。龍王や龍神は水神でもあり、龍と水との関係については上述した(蛇信仰がもとになったのかもしれない)が、中国では黄河上流の激流を魚が登ったら龍になるとして登龍門という熟語ができたように(読売新聞社刊『黄河源流を探る』所収の駒田信二著「黄河”ことわざ”考」より)、龍の付く名前の河がいくつもある。日本でも天竜川など同じような謂れがあるようで、川と龍の関係は深い。



熊本市西区島崎・釣耕園

高森町の有名な上色見熊野座神社いますにも夏休みに行って、ここも鬱蒼として噂どおりの雰囲気のある神社だった(祭神はイザナギ、イザナミだという)。熊野座神社は近場では山鹿市菊鹿町の深瀬熊野座神社と同市小坂の熊野座神社が思い出される(特に前者の急な石段)。菊池市七城町の板井熊野座神社の銀杏の落ち葉もきれいだった。小坂の同神社から山(西岳)の方へ登ると諏訪神社(明神さん)があり、大津町の矢護川公園から山に入った所にあった諏訪神社とともに記憶に残っている。菊池市の迫間橋の先にある西迫間の七坪産神社と市野瀬祝谷観音堂(本尊は十一面観音)も同様。ほかにもいくつも印象的な神社や堂宇があり、どこに行ってもひとけ人気はないものの、林や竹林、岩、苔、水の流れ、蝉や鳥の声など、その色彩や音や匂いは清澄で、自然に包まれてリフレッシュされる感覚(パワー?)を受ける。





山鹿市菊鹿町・深瀬熊野座神社

経験上、熊野座神社や諏訪神社(だけとは限らないが)は近くに水源や湧水があることが多いので、前田氏の本を読み直してみると、諏訪信仰はその祭神は「もとは水神だったろう」という説が紹介しており、熊野信仰については「白山信仰との共通点は多く、各地で白山社とセットで祀られ、熊野社から白山社へと転位するケースもしばしば見られた」とある。イザナミは「熊野の三神の一」であり「熊野と白山は姉妹神も同然」だというのである。熊野は「死から生へと蘇る地」であるから、白山信仰も「『死』をめぐる宗教の印象が濃厚で、とりわけ死から再生することに深く関わっていることが看取される」と著者は言う。

興味を惹かれる記述もあった。著者は白山神は渡来神だと書いているが、白山信仰の伝播経路からは「遠く離れた九州に、二箇所だけ、ぽつんと白山神社が集中して存在しているのを、私はかねがね疑問に思っていた」とある。その1つは熊本だと思われる。私がこれまで行ったことがあるのは山鹿市鹿央町の米野白山神社、熊本市北区の赤水白山比咩神社、西原村の白山姫神社だけだが、地図を見るとほかにも何社もあるようで、熊本市中央区に白山神社があるのは市内の人なら知っているだろう。西原村の白山姫神社は白糸の滝に行く途中にあるので以前にも立ち寄ったことのある神社だったが、熊本地震から1週間ほどして通ると大破しており残念に思っていたものの、2018年に無償援助を受けて再建されたとのニュースが流れていて安堵した。熊野神社と熊野座神社は白山神社よりもっと数が多く、私が訪ねただけでも10社近い。

前田氏は、菊池川流域は古来渡来人の入植が

盛んな地だとして、白山信仰の渡来経路は北陸と九州の2経路あったと推定している。この本と同様な内容の『渡来の原郷』(前田憲二、川上隆志両氏と共著)では同氏は、「南島には古代アジアに通有の日月信仰、再生信仰、穀霊信仰が顕著だが、こうしたいわば南方起源の信仰・民俗が、白山信仰には一部流入して」いて、その仲介をしたのは「黒潮(対馬海流)が近くを通る対馬であり、壱岐だったのではないかと書いている。

日月、蛇、稲霊など再生に関わる信仰については、柳田國男を始めとして民俗学の本には必ずと言ってよいほど出てくるが(岩波新書の谷川健一著『柳田國男の民俗学』など)、水も同様にそれに関わるものである。前田氏の先の本には、白山の女神は「水との親縁性が飛びぬけて高い」とあり、「人間の生死をめぐる水の働きは、霊妙かつ複雑」であり、「白山水」や「お水取り」などは「白山信仰の『若返り』『よみがえり』祈願に発する」と同氏は言っている。そして、「水は人間が生命を維持し、更新するのに不可欠な、再生のための必須アイテムなのである」とまとめている(8章「死と再生の民俗」の「末期の水と白山水」)。結局、水の信仰とは再生を願う信仰なのだろう。

(同章の「月と不死」で著者はロシア生まれで日本に留学したニコライ・ネフスキーについて言及し、章末のコラム「ネフスキーの先見性」でさらに詳しく紹介している。彼は「『不死』の生命を持つ蛇に強い関心を示し」ていたという。ネフスキーについては加藤九祚著『完本 天の蛇—ニコライ・ネフスキーの生涯』がお薦め。)

初めに取り上げた『見えない巨大水脈 地下水の科学』の本に戻って水の大切さを記して本稿のまとめとしたい。雨が地上に降り注いでから地下水になって湧出するまでの時間は滞留時間と呼ばれ、「いわば地下水の一生の長さ」であるとある。その平均は約600年であるが「地質条件や地下水の存在形態によって大きく異なり」、黒部川扇状地の砂丘の地下水は0.14年と短く、東京湾岸の深層地下水は2千年以上、オーストラリアの大鑽井盆地では110万年以上にもなるという。地下水の循環は「涵養」、「流動」、「流出」の3段階からなるそうだ。「はるか昔に降った雨が溜まった

地下水とは、いわば非常に『高齡』なのであり、その意味では石油と同様に、一回限りしか使えない資源である」と著者は書いており、「これは、地下水の利用や保全を考えるうえで、非常に重要な視点である」と強調している。

熊本県は地下水に恵まれている。4年生の研修旅行の引率や国際会議などで何度も行ったシンガポールは水を隣国マレーシアから輸入している(「水問題」もあるようだ)。研修旅行では、水の大切さを学生に分かってほしいと毎回、見学先の1つにニューウォータービジネスセンターを組み入れていた。そこでは、廃水を処理して飲める水にして再利用する取り組みを詳しく教えてくれて、土産に再生水のペットボトルを1本ずつくれる(飲みたがらない学生もいる)。同センターには小学生くらいの子供たちの団体が見学を訪れており、教育の一環となっていることが見て取れた(子供向けの説明なので本校学生の英語の勉強にも丁度よかった)。地下水の豊富な土地に住むからこそ、その大切さを理解し、大事に使うという意識を持ってほしいと私は考える。古来、わが国の人々は自然への信仰を通して、再生への願いを表してきた。現代でも少しも変わらないのではないかと思える。



大津町矢護川・諏訪神社

付録として、本文では取り上げた本が少なめなので、読書案内としていくつか関連する本を挙げておきたい。初めの方で白洲正子氏の本を紹介したから、女性作家と「神」に関する本を2冊と「川」に関係する本を1冊。

・『涙をたらした神』(吉野せい著、中公文庫にもあり): 吉野氏は詩人の夫・三野混沌と開墾生活を送り、夫の死後この本を書いた。素朴な人生観が潔

い。山村暮鳥と交流があり、『暮鳥と混沌』という本もある。

・『神も仏もありません』(佐野洋子著、ちくま文庫にもあり): 著者は絵本『100万回生きたねこ』で有名だが、エッセイでもその人間観が凄い。私は衝撃的な本と思う。『シズコさん』(新潮文庫にもあり)も同様。

・『アルゲン川の右岸』(遅子建著、竹内良雄・土屋肇枝訳): 著者は黒龍江省にある中国最北端の北極村出身。アルゲン川はアムール川(黒龍江)の支流である。自然と共に暮らしてきた狩猟民族・エヴェンキ族の歴史を、90歳になる最後の酋長の妻の語りにより振り返るもので感動的。この著者の『今夜の食事をお作りします』(同訳)もよい。後者の解説には著者の言葉として、「大自然の親しみ深い触れあいは私に徐々に言語に興味を抱かせた。私の書く原動力は往々にそれらから与えてもらった感動だ」とある。北方の民族や探検の本のことはいつか私も書いてみたいと思っている。

男性作家の本は「川」に関連する2冊と「付け足し」として引用を。

・『龍あらわる—中華怪有篇』(西村康彦著): 著者には『中国の鬼—魁星樓余聞』、『天怪地奇の中国』、『中国世紀末逸聞』もある。本文でも述べたように中国では龍は天候や水を支配する想像上の動物で、皇帝の象徴でもあった。この本では、著者は中国の龍に関わる不思議な話を集めている。

・『大河の源流—黄河・長江』(長野良市著): 著者は阿蘇出身の写真家で、阿蘇の写真集も出している。黄河や長江の源流を訪ねる内容の本(写真集も)は著者以外でも色々あって私は興味深く読んでいる。黄河に魚釣りに出掛けた『大黄河を釣る』(森秀人著、和田久士写真)はユニーク。ブラマブトラ川の上流を訪ねる『空白の五マイル—チベット、世界最大のツアンポー峡谷に挑む』(角幡唯介著、集英社文庫にもあり)、メコン川源流を辿る『メコンを流れる』(青柳健二著)や『瀾滄江怒江伝』(黄光成著、大澤香織訳)もよい。これらのような源流や上流に私も行ってみたいと思うが、長江の第一湾や虎跳峡まででせいぜい……。



付録の付け足しとなるが、山尾三省氏の本についてもこの機会に書いておきたい。同氏の本は10冊以上持っている。山尾氏は東京市神田区(現・千代田区外神田)出身。屋久島に移住して、農作業をしながら詩やエッセイなどを書いた。家族でインドやネパールで暮らしたこともある(『インド巡礼日記』、『ネパール巡礼日記』)。山尾氏の2つの著作から引用して終わりにしたい。まずは、『ここで暮らす楽しみ』の「山ん川の湧水」から。

「地球を股にかけて命がけで学び歩くようなのも生き方のひとつではあるが、そういう生き方を大多数のぼく達が、しかも一生つづけて生きられるわけではない。人生のある時期に、学びと憧憬としての旅は終り、場所に暮らすことが始まる。場所に暮らすということが、時々旅行なども含めて、大多数のぼく達の二度とはない人生の旅の真の始まりなのである。」

「地球ということに関心が深まれば深まるほど、ぼく達は逆にこの地域において、場所において深く楽しく暮らすことを大切にしないわけにはいかない。」

「水道というものに象徴される文明の進歩は、むしろ悪いものではない。ぼく達のような特殊に水に恵まれた島に住む者であっても、もはや水道を抜きにした生活というものは考えられない。／けれども、もっと豊かなものは、水道もあるが湧水(井戸)もある、都市を含む日本の全土の風景だろう。日本の百名水をひとつの基盤として、昔は東京の神田・お茶の水にも湧いていたはずの湧水を、取り戻してゆきたいというのが、ぼくの大願なのである。」



菊池市・菊池溪谷

『銀河系の断片』(堀越哲朗編)の「循環するもの」から。

「二十世紀は進歩することが一方的に神話である時代であったが、次の時代はそれと同時に循環することが新たな神話となるはずである。／なぜならばぼく達が森に入ってほっとするのは、ぼく達自身である循環の相が、より大いなる森という循環の相につつまれるからであり、ぼく達は進歩することと同時に、いつでもほっとすることを願っている生きものでもあるからである。」



菊池市旭志・乙姫湧水





令和3年度校内読書感想文コンクール表彰式にて (2021年8月5日)

## 令和3年度校内読書感想文コンクール結果発表

【最優秀賞】 辛いと幸いの間

1年3組 池邊 アンナ

【優秀賞】 過去、現在、そして未来へ

2年2組 浅野 結太

【優秀賞】 本当にすごいこと

2年2組 小野 誠秀

【優秀賞】 『コンビニ人間』を読んで

1年1組 中島 羽音

【佳作】 身近なことだと思って

1年3組 本司 茉莉

【佳作】 心で見る物事の価値

1年1組 中村 暁大

【佳作】 頑張るでも頑張らないでもなく、頑張りすぎない

2年1組 高木 陽

【佳作】 『青くて、痛くて、もろい』を読んで

TE4 竹井 優奈

【佳作】 輝く世界で

1年1組 三池 陽奈子

★最優秀賞(1編)には賞状および副賞として図書カード(10,000円分)、優秀賞(3編)には賞状および副賞として図書カード(6,000円分)、佳作(5編)には賞状および副賞として図書カード(3,000円分)が贈られました。



第67回青少年読書感想文全国コンクール  
熊本県審査において池邊 アンナさんが  
「佳作」と、第41回全国高校生読書体験記  
コンクールにおいて中村 暁大さんが「入  
選」となりましたので、2022年2月3日に校長  
室にて表彰式を執り行いました。



**校内読書感想文コンクール【最優秀賞】**  
**第67回青少年読書感想文コンクール**  
**熊本県審査「佳作」**  
**辛いと幸いの間**

-『52ヘルツのクジラたち』を読んで-

**1年3組 池邊 アンナ**

この本は、今年度の本屋大賞を受賞しており、社会人経験のない私には正直意味を理解することができない場面が多々あったが、それでも感じることや考えさせられることは多くあった。貴瑚や、少年が様々なものを抱えながら生きていく姿は、少し弱々しさがありながらもとてもかっこよかった。

特に印象に残ったのは、人の心や感情は複雑だということだ。虐待経験を持つ貴瑚の過去は幸せでよい人生だったとは言えず、辛いことがある度心を痛めていた。一方少年は、母親からムシと呼ばれており、虐待を受け続け、言葉を発することができなくなった。彼女らの心の傷は、簡単に治るものではない。貴瑚を虐待から救ったアンさんという人物も心に抱えているものがあつた。トランスジェンダーを母親に認めてもらえないまま自殺してしまう。強い人こそ過去に何かあっていまだに心に傷を抱えているのかもしれない。作品を読み終えたとき私の心の中は、悲しみや怒り、憎しみや驚きなど様々な感情が絡み合っていた。登場人物のほとんどに悲しい過去があり、人の辛い部分だけにスポットライトを当てたような感じだった。

しかし、この作品は絶望的で暗く、苦しいことがあつても、生きているといつか幸せなことが起きるといふ強いメッセージ性を感じることができた。

まだ十五年間しか生きておらず、経験も少なく分からないことだらけだが、辛い、苦しい、きつという理由で、死を選択するのはもったいない気がする。実際私も、貴瑚達ほどではないが、今までの人生の中で一番辛い壁に当たったとき、すべてを辞めてしまおうかと思ったことがあつた。しかしたくさんの人に助けられて、今、生きている。友達に囲まれ、好きな音楽を楽しめて、とても幸せだ。生きていてよかった。苦しいならだれかに助けを求めていいと改めて思う。

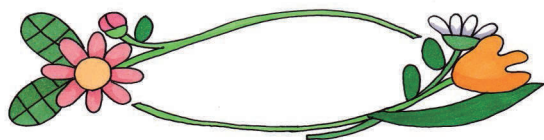
さらに、この経験で生きることが簡単ではないこ

とも知つた。人は、一人では生きていけない。私は、自閉症という、人と少し違う部分がありながら、周りの人は受け入れてくれている。両親に愛され、友達や先生など色々な人に支えられて私は本当に幸せだ。辛いことがあつたときすぐに話を聞いてくれる人がいる、できないことをサポートしてくれる人がいる、私をまっすぐに受け入れてくれる人がいることは実は当たり前ではないと分かつた。児童虐待や、傷害、自殺、無関心、家庭内暴力、愛人などマイナスなイメージの事柄が多くあり、こんな人はいないだろうと、心のどこかで思っている自分がいだが、実際ゼロではない。今もどこかで苦しい思いをしている人がいるかもしれない。

私はこの本を読んで、人に寄り添える人でありたいと思つた。他のクジラが聞き取ることができない52ヘルツで鳴く、世界一孤独なクジラのように、伝えたいことを伝えることができない人が、世の中に多くいる。私はそのような人たちの間にいて、52ヘルツの声を聞き取れる人でありたい。アンさんが貴瑚を、貴瑚が少年を助けたように、私も人を助けることができる人でありたいと願う。

ただ、どんなに辛くても自ら命を絶つただけはやめてほしい。私には何もできないのでただの綺麗事かもしれないが、死にたいと思うまで自分を追い詰める前に、周りの人を頼ってほしい。貴瑚や少年が、私自身がそうであつたように、生きていれば必ず幸せは訪れる。そのチャンスを自分までもが奪ってはいけない。52ヘルツの声を出している人は、実はとても近くにいるかもしれないと、周りのみんなを気にかけることができる、強い人になりたい。

近年とても多い児童虐待。虐待は注意して終わるほど単純なものではなく、心に深い傷を残し、幼くして亡くなってしまったというニュースも最近では、よく耳にする。私にはまだ虐待から救える勇気も度胸もない。決して奪う側にだけはならないようにしようと思つた。「わたしは、あんたの誰にも届かない52ヘルツの声を聞かよ」と、少年に言つた貴瑚は、私のあこがれである。



## 校内読書感想文コンクール【佳作】 第41回全国高校生読書体験記 コンクール「入選」 心で見える物事の価値

—『星の王子さま』を読んで—

### 1年1組 中村 咲大

この物語は、小さな星に住んでいた王子さまが、星に咲いた一輪の花の発言に悩まされ星を去り、広い世界に触れることで、自分の一輪の花について考えを改め、新しい物の見方を得ていくという内容である。さらに、その王子さまの話聞いた「僕」の心情の変化も描かれている。

この物語の中には、童話でいう教訓に当たるような、重要であり素晴らしい台詞が多くある。そのなかでも、私の心に特に印象深く残った台詞がある。それは、王子さまが地球で出会ったキツネと別れる際にキツネが言った、「じゃあ秘密を教えるよ。とてもかんたんなことだ。ものごとはね、心で見なければよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない。」という台詞である。私はこの台詞に、この物語が要約されていると思った。同時に、作者、サン＝テグジュペリから読み手へのメッセージは、この台詞に示されているとも思った。王子さまにとって「いちばんたいせつなことは、星の一輪の花が王子さまにしてくれたことであり、花が王子さまに対して愛情をかけたことである。また、これは、「心で見なければよく見えない」ことでもある。

確かに人々は、目に見えてわかりやすいものを重視しようとする。私にもそういうことが多くあった。具体的な数値や物事の状態を示す指標は、物事を比較するのに役に立つが、それは「目に見えること」に過ぎない。数値は他のどんな情報よりも素直に事実を伝えてくれるが、逆に、そこに隠されたもっとたいせつなことに、気づくことができなくなってしまうかもしれない。

私の心に纏う違和感は、この台詞を目にしてから、すっかりなくなっていた。

私は中学生のときに吹奏楽部に所属していた。私達の部は比較的「強い」部だった。芸術に強いとか弱いなどという概念が存在すること自体が、そもそも違和感の原因であった。ただそれ以上に『吹奏楽コンクール』という存在が、私に違和感を与えた。そのコンクールでは、県内ほぼ全ての吹奏楽部が練習に練習を重ね、その結晶とも言える音楽を披露し、審査員に点数という評価を与えら

れる。私は、部員である全員が本当に努力しているのを知っていた。ところが、惜しくも金賞を逃したことがわかった瞬間、皆が点数の低いテストの解聘用紙を見せつけられたかのような表情になったのを覚えている。なかには「努力したのに」と、まるで努力が無駄になったかのようなことを口走る者もいた。

私は皆の努力を知っていたから、より不思議に思った。たとえ金賞でも銀賞でも、あるいはどの賞を与えるにも値しないほど下手でも、努力したことの価値は絶対的かつ普遍的なものだと思っていたので、審査員が与えた評価(=点数)で努力の価値を決められるということが、本当に不思議であった。私たちの部はあと二点か三点で金賞だった。「一点」と書かれていた升があったとして、もし審査員が気まぐれでも起こして「一点」を「四点」と書き間違えたのなら、私たちは見事に金賞を獲得していた。そして、きっと私たちの努力の価値は、銀賞などの数倍の価値があるように見えたのだろう。

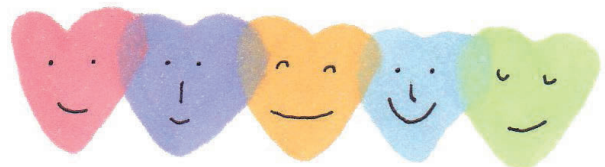
中学校を卒業した今でこそ思える。私たちは、コンクールの賞などに感情や価値観を左右され、惑わされていた。やはり、賞という、目に見えるものを全てだと思っていた。「いちばんたいせつなことは、「努力したこと」であることに気づけなかった。

このような経験もあったから、私は、「心で見なければ、よく見えない」、「いちばんたいせつなことは、目に見えない」という台詞に悔しいほど納得し、共感した。

まだ私が気づいていないだけで、物事を表面だけ見て、損したり、価値を見出だせなかったことが、今までに沢山あっただろう。本当に勿体無いことをしたと思っている。

私がこの物語から学んだことは、「いちばんたいせつなことは、目に見えない」という台詞そのものに収まってしまふ。しかし、この誰にでも理解できる簡単な台詞が、自分の住む世界、見る世界を鮮明に彩ること、より深く感慨にふけること、そして、美しく、正しく生きていくための判断を誤らないためのヒントとなった。

たいせつなことに気づくことができるように、私は、心で物事を見る、心眼を身に着けていく必要があると実感した。





## 校内読書感想文コンクール入賞作品対象本紹介

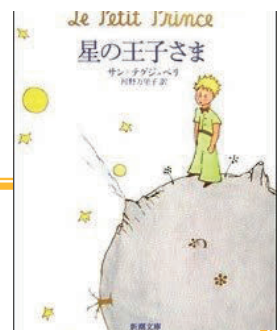
### 【最優秀賞】

辛いと幸いの間  
『52ヘルツのクジラたち』  
1年3組 池邊 アンナ



### 【佳作】

心で見る物事の価値  
『星の王子さま』  
1年1組 中村 暁大



### 【佳作】

輝く世界で  
『星の王子さま』  
1年1組 三池 陽奈子

### 【優秀賞】

過去、現在、そして未来へ  
『コーヒーが冷めないうちに』  
2年2組 浅野 結太



### 【佳作】

身近なことだと思って  
『アンネの日記』  
1年3組 本司 茉莉



### 【優秀賞】

本当にすごいこと  
『ルビィ』  
2年2組 小野 誠秀



### 【佳作】

頑張るでも頑張らないでもなく、頑張  
りすぎない  
『推し、燃ゆ』  
2年1組 高木 陽



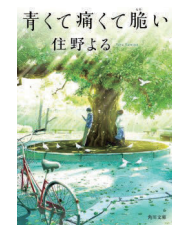
### 【優秀賞】

『コンビニ人間』を読んで  
1年1組 中島 羽音



### 【佳作】

『青くて痛くて脆い』を読んで  
TE4 竹井 優奈



## 編集後記

今年度は、昨年度に比べるとある程度自由に活動が出来るようになり、本を読む時間が減った、という方もいるかもしれませんが。忙しい中の少し時間を作って本を読んでいただきたく、今年度は活動してきました。

最後に、1年間学生図書委員会のサポートをいただいた学生課図書係長小崎さん、『くぬぎの森』作成に協力していただいた村上先生、合志先生、そして学生図書委員の皆さんに感謝申し上げます。

TE5 学生図書委員長 大倉 空

※表紙写真を提供いただいた写真同好会CI4 野満 恵太さんに感謝します。タイトルは左上より「三角簡易裁判所の舎窓から」、「鍋ヶ滝」、「桜の馬場 城彩苑の花手水」、「海長部田海床路」です。

※特集コーナーを紹介していただきました本木先生ありがとうございました。

# 図書館統計（令和3年1月～令和3年12月）

（令和3年1月7日現在）

入館者数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
	533	581	932	1,654	679	1,189	1,059	516	413	962	844	710	10,072

蔵書数	和書	洋書	合計
	70,021	4,628	74,649

日本十進分類法 (NDC) 分野別貸出冊数	0総記	1哲学	2歴史	3社会科学	4自然科学	5技術、 工学	6産業	7芸術、 美術	8言語	9文学	その他	合計
	340	97	29	226	365	296	24	196	1,743	702	5	4,023

月別貸出冊数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1年生	3	9	13	36	31	46	30	55	0	22	15	14	274
2年生	8	28	12	11	3	4	2	11	0	4	4	2	89
3年生	84	62	16	217	114	83	75	71	11	119	69	92	1,013
4年生	44	119	55	93	39	98	41	42	4	56	42	73	706
5年生	43	19	18	89	42	69	50	105	0	49	85	44	613
専攻科1年生	8	35	15	21	22	28	11	11	0	33	31	33	248
専攻科2年生	2	4	0	49	36	39	19	2	1	22	16	17	207
教職員	41	26	64	42	22	49	50	67	91	99	85	90	726
その他(一般 利用者等)	12	14	4	8	10	16	12	11	22	10	10	10	139
合計	245	316	197	566	319	432	290	375	129	414	357	375	4,015

## 開館時間

月曜日～金曜日	8:30～19:00（退館時間18:45）
春季・夏季・冬季休業期間中の月曜日～金曜日	8:30～17:00（退館時間16:45）

## 休館日

- ・土曜日・日曜日
- ・国民の祝日
- ・年末年始等の校長が定めた日
- ・一斉休業日
- ・その他図書館長が休館と定めた日

※ただし、特別な場合はこの限りではありません。開館時間および休館日については、本校WebページやMyOPAC（利用者の個人ページ）で確認の上、ご来館ください。

★入館に際し、制限等がある場合もございますのでご注意ください。

## 貸出期間と貸出冊数

貸出の種類	借受者	貸出期間	貸出冊数	備考
一般貸出	教職員	2週間	5冊以内	
	学生			
	一般			
長期貸出	教職員	2ヶ月	10冊以内	教育および研究に必要な図書館資料に限る
	学生	春季・夏季・冬季休業期間とその前後1週間	10冊以内	一般貸出の冊数を含む
	卒業研究用 特別研究用	2ヶ月	10冊以内	卒業研究および特別研究に必要な図書館資料に限る